

# 豫科練



No.477 令和5年

7・8月号

○連載《シリーズ海軍及び予科練各種記念碑・慰霊碑》No.20…	2
○連載《シリーズ海軍飛行予科練習生遺稿》……………	3
○名刺広告……………	4
○第56回予科練戦没者慰霊祭詳細報告……………	6
○第56回予科練戦没者慰霊祭玉串奉納者ご芳名簿……………	9
○茨城の戦跡紹介④⑤……………	10
○海原会会員徽章の販売……………	14
○救出飛行の最終便②……………	15
○さらば予科練⑪……………	18
○魔の関門海峡……………	21
○海原会寄付者芳名簿……………	23
○事務局日誌……………	23

公益  
財団法人

# 海原会

霞ヶ浦に立ちて海軍飛行  
予科練習生を偲びてよめる

海軍に

はたおほそらに  
散華せし

さみら声なく  
いく春やへし

わろ

高松宮妃殿下御歌

霞ヶ浦に立ちて海軍飛行  
予科練習生を偲びてよめる

海はらに

はたおほそらに

散華せし

さみら声なく

いく春やへし

この御歌は、高松宮喜久子妃殿下の御直筆で、有栖川流と申しあげ、妃殿下はその御宗家にあたられると承ります。

海軍及び予科練各種記念碑・慰霊碑 霞ヶ浦海軍航空隊戦没者慰霊碑 No.20

霞ヶ浦海軍航空隊は、昭和十四年三月に予科練教育を横須賀海軍航空隊から移転させた  
が、昭和十五年十一月に土浦海軍航空隊の開隊で予科練教育を同航空隊に移し、陸上班、  
水上班に分け専ら陸上機操縦の練習航空隊となった。

終戦を目前にした六月十日に「B 29」の大空襲を受け、霞ヶ浦、土浦両航空隊は大損害  
を蒙ったが、霞ヶ浦空では二十三名の戦死者を出した。これらの英霊は、当時海軍適性部  
（現在の土浦第3高等学校）の庭で土浦空の戦死者と共に茶毘にふした。その遺骨は、そ  
れぞれ遺族に渡されたが法泉寺前住職山岡英明和尚は、残骨を集め寺内に葬り、独り回向  
をしてきた。これらの戦友を供養するため、霞ヶ浦空の戦友がこの『碑』を建立した。



- 所在地 土浦市大岩田 法泉寺
- 建立年月 昭和五十年六月十日
- 慰霊祭 毎年六月十日の前の日曜日
- 問合せ 土浦市大岩田 法泉寺 住職 山岡英明
- 電話 〇二九八一二一―五二八八

# 海軍飛行豫科練習生

## 遺書 遺詠 遺稿 辞世

### 遺書

神風特別攻撃隊・第五昭和隊

藪田 博 海軍二等飛行兵曹

大阪府 十九歳  
第十八期乙種飛行予科練習生

咲き乱れし桜花も散りゆく候と相成り候。凶らずも不肖私、この度特別攻撃隊の一員として愈々明日出撃と相成り候。海軍に身を投じて、もとより生命は君国に捧げて無きものと信じ居り候。今さら何の未練も残るべき。三千年來の歴史を有する祖国危急の折、一命以って敵艦戦に見事体当たり、大恩ある君国に報ゆるこそ男子の本懐に候。

心静かに顧みれば、今日に至るまで一人前に育てて下されし御両親をはじめ、親戚御一同様、皆々様に何一つご恩返しも出来ずして候ことは、平にご容赦相成りたく候。

弟達も兄として面倒出来ざることには非常に残念に思い候。然れどもこの度こそは必ずや敵空母に体当たり、一命以って君国に殉じ、君に忠かなれば親に孝なりと存じ候。私より先立って親友横山も花と散り候。今回海征かば水漬く屍。空征かば雲むす屍と出撃し見事体当たり、成功すとお聞きになり候はば喜び下されたく候。色々と書きたきこと数あり候えども、今に望んでほくどくと書きまじく候。最後に皆様のご壮健を祈り、ペンを置き候。

日の本に 数もて来れる 仇敵を

愛機諸共 体当たりすこそ 痛快なれ

昭和二十年四月二十九日 矢田部海軍航空隊 練戦に二五〇キロ爆装 一四二〇鹿屋基地発進  
沖縄島北端一二〇度六〇埋及び九〇度七〇埋の艦船を攻撃戦死



# 暑中お見舞い申し上げます



公益財団法人

## 水交會

会 長

杉本正彦

副会長

佐賀幾雄

理事長

河野克俊

専務理事

村川 豊

事務局長

徳丸伸一

公益財団法人

## 特攻隊戦没者慰霊顕彰会

会 長 藤田 幸生

理事長 岩崎 茂

副理事長 岡部 俊哉

専務理事 石井 光政

公益財団法人  
海原会

理事長 安井 剛(一般)

副理事長 酒井 省三(一般)

副理事長 星指 隆(一般)

名誉会長 小林 和夫(乙19)

名誉顧問 菅野 寛也(一般)

顧問 池 太郎(一般)

顧問 六車 昌晃(一般)

理事 平野陽一郎(一般)  
(事務局長)

理事 篠田 輝男(一般)

理事 山下 桂子(一般)

理事 塚 純一(一般)

監事 豊岡 昭(甲16)

監事 原 雅英(一般)

参与 行方 滋子(一般)  
(事務局次長)

# 暑中お見舞い申し上げます

(公財)海原会・名誉顧問  
第四代理事長

菅野 寛也

(公財)海原会・評議員  
三重空甲十二期会・代表幹事

久保山 賞一

予科練二十四期会世話人代表

岩 舘 芳雄

予科練特飛十期会会長

佐 藤 建次

(公財)海原会・監事  
土空甲飛十六期

豊 岡 昭

予科練二十三期会・会長

保 坂 俊雄 (23)

「人と自然が作る楽しい」

## 茨城県稲敷郡阿見町

東洋一と言われた霞ヶ浦航空隊に、若き雛鷺の声がありました。

土浦海軍航空隊は、いま人口四万七千人の町の大きな歴史財産になっています。

阿見町は、現在福祉、緑の保全、生涯学習などに力を入れ、住民参加の町づくりを、積極的に進めています。

穏やかな霞ヶ浦、町中にあふれる桜の花が、今も静かに鎮魂の意を捧げています。

予科練の歴史を後世に奇与するため、阿見町は

「霞ヶ浦平和記念公園」を整備し、平和のシンボル「予科練平和記念館」を建設し、開館しました。

平成二十二年二月一日



零 戦

## 第五十六回

### 予科練戦没者慰霊祭が

しめやかに

### 執り行われました

令和五年五月二十八日、第十六回予科練戦没者慰霊祭が五月晴れの雄翔園で約二百三十名の参列者をお迎えして開催されました。

慰霊式典は、全国のご遺族を代表され甲飛第十期生神社明様の甥神社正幸様をはじめとされるご遺族・予科練同窓生とその関係者約八十名が、海原会からは安井剛理事長を始めとする役員十八名が、武器学校からは坂本正義武器学校長以下六名の幹部自衛官が、また武器学校OB会長の六車昌晃様が、阿見町からは千葉繁町長をはじめとする多くのご来賓にご列席していただき、しめやかに執り行われました。

式典は、国旗掲揚の後、例年と同じように下総教育航空群隊員による儀仗が行われ弔銃の音が、まるで戦没予科練生の御霊を呼び起こすかのように、かつ



て彼らが訓練に勤しんだ旧土浦海軍航空隊跡に響き渡りました。

安井理事長からは、「歴史の一部が、時の流れの中に埋もれて行くことも歪めようのない事実であります。

しかしながら時の流れが幾何であろうとも、苛烈を極めた先の大戦において我が国の安寧を願い勇戦敢闘し、大空にまた大海原に散華された予科練戦没者一万八千有余名その殉国の精神と献身の尊厳は色褪せることはありません。」

私たち海原会は今後とも末永く予科練戦没者の慰霊顕彰及び史実の伝承に努めていく事を在天の英霊の皆様にお誓い申し上げます。」

と祭文が読み上げられました。その後、坂本学校長、大町海上自衛隊教育航空集団司令官など十二名の代表者による献花が行われ、引き続きご来賓3名からお言葉をいただいた後、ご遺族代表の、神社正幸様（甲飛十期神社明様甥）からご挨拶を頂戴し、海原会行方滋子参与の遺

書朗読へと続き、式典終了後は参列者全員による献花が執り行われました。

慰霊祭は今年で五十六回目を迎えました。参列をいただくご来賓の皆様の様子は大きく様変わりしつつあります。いまから五十年前は、参列者のほとんどは戦没予科練生のご遺族と生存予科練同窓生の皆様でした。

やがてご遺族も戦没者直系のご両親や兄弟が高齢化したために、甥や姪が中心となってきました。

更に、今から十五年ほど前からは生存同窓生も高齢化が進み参列が難しくなると、変わって一般の参列者の数が増えてきています。参列者の構成がいかに変わったとしても、その時々々の有志の皆さんで戦没予科練生の慰霊を続けていく事は、この国の平和を考えるうえでも極めて大切なことではないかと考えています。

さて今回は少しだけ、慰霊祭の準備の様子を会員の皆様に紹介いたします。

陸上自衛隊武器学校では、慰霊祭当日、ご遺族や同窓生を気持ちよく会場にお迎えするため、四月初旬ごろから環境の整備を始めます。雄翔園の整備はもとより、園内の池に一年間でたまった汚泥を洗い流し、水を入れ替えて慰霊祭当日は池の底を泳ぐ魚がみえるほどの透明度が確保されます。



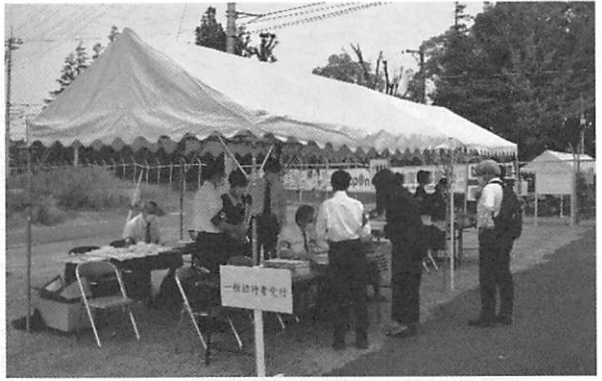
一方海原会では実行委員会を組織し、事前に3回の委員会を

開催し勤務員一人一人の任務を明確にするとともに、慰霊祭当日の約二週間前に行なわれた委員会では当日の時間経過に従って、各人の行動をシミュレーションし問題点を洗い出し対策を講じるなど、真剣に準備が進められます。

そして迎えた慰霊祭当日は勤務員六十九名が午前七時半に慰霊祭本部に集合し、事前の打ち合わせのとおり準備に取り掛かります。それに合わせて武器学校の支援隊員四十六名も総務課







長の指揮下で一糸乱れのない準備作業を開始します。

会場設営係は供物の飾り付けや供花の配置を、音響係は会場内音響の準備を、そして当日の主役である式典班では、支援部隊である海上自衛隊の儀仗隊や陸上自衛隊の音楽隊、婦人会の慰霊舞踊から霞ヶ浦高校の生徒さんの献花のやり方の指導まで、事前には決してできない予行を短時間で行います。

そして、受付が開始される約



二十分前に全ての準備を終了させ、静かに式典の開始を待つのです。

一時間十五分の慰霊式典のために、多くの関係者が一団となって、その数十倍の時間を費やして準備を進める。これもまた支援をいただいている、勤務員それぞれの慰霊祭なのかもしれません。

令和五年五月二十八日午前九時定刻に受付が開始され、いよいよ今年の慰霊祭の幕が切つて

おろされます。  
一年ぶりの懐かしい顔、顔、顔。もしかしたら来年はお会いできないかもしれない思いながら、勤務員一人一人が笑顔で来場者をお迎えます。



昨年は歩いて参加されましたが、今年は安全のために車椅子での移動を進められる特攻隊員として散華された予科練戦没者の妹さん、今年は末の弟さんご夫婦と参列です。



「来年もまた、皆様と元気で笑顔でお会いしたい」、本日勤務した全ての支援者の思いです。少しだけ休息をとって、頭と体を休めたらすぐに第五十七回目の慰霊祭の準備が開始されます。

英霊たちの思いを背負い

皆様の笑顔に会いたくて

(第56回予科練戦没者慰霊祭

実行委員会)



第56回予科練戦没者慰霊祭  
玉串奉納者ご芳名簿

二万円	愛知県西尾市	三千元	群馬県藤岡市	五千元	栃木県那珂川町	一万円	滋賀県大津市
近藤 新市 様		針谷 賢一 様		松本嘉一郎 様		太田 誠二 様	
三千元	愛知県名古屋	一万円	茨城県常総市	一万円	神奈川県川崎市	五万円	静岡県静岡市
愛知 順子 様		遠藤 利 様		磯貝 孝子 様		菅野 寛也 様	
松本 順子 様		佐賀県鳥栖市		群馬県高崎市		五千円	神奈川県鎌倉市
五千円	東京都東村山市	大久保浩之 様		本間 謙伸 様		五千円	山田 満 様
岩館 芳雄 様		埼玉県さいたま市		長野県大町市		五千円	東京都葛飾区
茨城県阿見町		小島 卓 様		平林 峰子 様		五千円	豊岡 昭 様
湯原豊一郎 様		神奈川県川崎市		千葉県稲毛区		五千円	愛知県北設楽郡
一万円	東京都港区	伊藤かをり 様		秋山 孔考 様		二千円	夏目 博史 様
小野 亜希 様		東京都調布市		愛知県岡崎市		二千円	埼玉県さいたま市
茨城県龍ヶ崎市		保坂 俊雄 様		池 太郎 様		一万円	佐藤 肇 様
大野 敏明 様		兵庫県伊丹市		東京都多摩市		一万円	茨城県古河市
三千円	千葉県香取市	池田 哲男 様		津島 裕 様		三千円	佐怒賀一美 様
國分 迪夫 様		大阪府高槻市		東京都板橋区		三千円	茨城県阿見町
一万円	静岡県沼津市	二階堂英雄 様		吉田 一則 様		五千円	栗原 宜之 様
磯部 恭子 様		熊本県熊本市		長崎県大村市		五千円	東京都世田谷区
一万円	長野県須坂市	永光 頼光 様		城島 宗安 様		五千円	明石 英次 様
竹前 正一 様		東京都世田谷区		宮城県仙台市		五千円	兵庫県川西市
茨城県土浦市		岩澤 末三 様		掛田 啓明 様		一千円	吉川 誠二 様
真島 博厚 様		茨城県阿見町		大阪府大阪市		五千円	兵庫県芦屋市
五千円	群馬県渋川市	大川 恭男 様		村木 良治 様		五千円	石田 典生 様
岸 英夫 様		新潟県新発田市		東京都江戸川区		五千円	埼玉県鳩山町
五千円	東京都東村山市	佐藤 剛 様		塩澤 貞夫 様		五千円	茨城県古河市
溜池 道男 様		大分県大分市		神奈川県藤沢市		五千円	八代 敏夫 様
		茨城県阿見町		谷口 五郎 様		五千円	神奈川県逗子市
		横張 浩 様		茨城県ひたちなか市		五千円	野口 忠洋 様

- |     |         |             |     |          |            |
|-----|---------|-------------|-----|----------|------------|
| 五千円 | 茨城県土浦市  | 行方 滋子 様     | 三万円 | 長野県千曲市   | 北村 直也 様    |
| 三万円 | 東京都千代田区 | (有) 日本産業広告社 | 一万円 | 東京都練馬区   | 東京 隆 様     |
| 一万円 | 千葉県稲毛区  | 小林 和夫 様     | 五千円 | 静岡県焼津市   | 鈴木 昭吾 様    |
| 一万円 | 茨城県阿見町  | 戸張 礼記 様     | 一万円 | 佐賀県有田町   | 井上 萬二 様    |
| 五千円 | 岐阜県各務原市 | 磯貝浩次郎 様     | 三万円 | 茨城県土浦市   | 立正佼成会 土浦教会 |
| 五千円 | 千葉県船橋市  | 水澤 成雄 様     | 五千円 | 茨城県筑西市   | 荒井 貞光 様    |
| 五千円 | 神奈川県横浜市 | 佐藤 建次 様     | 一万円 | 福島県南相馬市  | 深野 久 様     |
| 一万円 | 千葉県木更津市 | 仲居 照栄 様     | 一万円 | 群馬県太田市   | 今井 アサ子 様   |
| 五千円 | 福島県南相馬市 | 工藤 垂穂 様     | 一万円 | 神奈川県南足柄市 | 神奈川 克巳 様   |
| 五千円 | 群馬県前橋市  | 今井 貞子 様     | 七千円 | 埼玉県北本市   | 宮下 久代 様    |
| 五千円 | 茨城県阿見町  | 酒井 省三 様     | 一万円 | 栃木県足利市   | 山岸 修次 様    |
| 五千円 | 神奈川県三浦市 | 米倉 禮子 様     | 一万円 | 埼玉県川口市   | 鈴木 秀子 様    |
| 三千元 | 神奈川県横浜市 | 服部 義隆 様     | 五千円 | 茨城県阿見町   | 安部 次男 様    |
| 一万円 | 兵庫県河西市  | 為平 浩一 様     | 五千円 | 茨城県阿見町   | 海野 隆 様     |

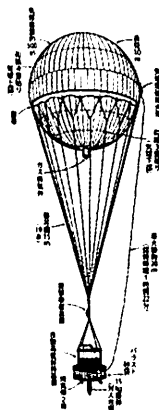
- |     |         |              |     |         |         |
|-----|---------|--------------|-----|---------|---------|
| 三千元 | 茨城県阿見町  | 大竹恵美子 様      | 三千元 | 茨城県阿見町  | 大竹恵美子 様 |
| 一万円 | 広島県呉市   | 戦歿学徒慰霊祭実行委員会 | 七千円 | 東京都渋谷区  | (公) 水交会 |
| 七千円 | 埼玉県熊谷市  | 安田 直弘 様      | 七千円 | 埼玉県熊谷市  | 安田 直弘 様 |
| 二千元 | 茨城県つくば市 | 川口 義夫 様      | 二千元 | 茨城県つくば市 | 川口 義夫 様 |
| 五千円 | 東京都品川区  | 加藤 正春 様      | 五千円 | 東京都品川区  | 加藤 正春 様 |
| 五千円 | 茨城県土浦市  | 石田 和美 様      | 五千円 | 茨城県土浦市  | 石田 和美 様 |
| 一千円 | 東京都渋谷区  | 本田 賢也 様      | 一千円 | 東京都渋谷区  | 本田 賢也 様 |
- (令和五年五月二十八日現在)

### 茨城の戦跡紹介④

海原会参与 行方 滋子

今回は、茨城県北茨城市に点在する「風船爆弾大津基地」の戦跡を紹介します。

○ 風船爆弾とは  
太平洋戦争末期、日本軍が



最後の奇策として決行した秘密作戦、それが「風船爆弾」でした。  
晩秋から初春にかけて、太平洋上空の高度八千から一万二千メートルには西から東に向けて、強いジェット気流が吹きます。この気流に爆弾と焼夷弾を吊るした気球を乗せて、はるか一万メートルのかなたにあるアメリカ本土を直接攻撃しようとしたのが風船爆弾です。

これは手すきの和紙にコンニャク糊を使って何層にも貼り合わせて直径十メートルにもなる風船をつくり、そこに水素ガスを入れて、十九本ものロープで爆弾一個と焼夷弾四個、そして三十二個の砂袋(バラスト)を高度保持装置として吊るしたもので、爆弾が投下されると気球全体が爆

発して燃えてしまう仕組みになつていました。

陸軍技術研究所は、こうした秘密兵器の開発に極秘に着手し、その順番を「いろは：」と作戦名をつけていきましたが、風船爆弾は偶然にも風船の「ふ」という頭文字とも一致して、「ふ」号作戦と呼ばれました。

「ふ」号作戦と呼ばれたこの作戦は、気球に爆弾をつけて飛ばし、アメリカ本土を直接攻撃しようとしたもので、一九四四年（昭和十九年）十一月から一九四五年（昭和二十年）四月までの間に九千三百個を海の向こうへと打ち上げました。

空高く静かに舞い上がるその風船は、夕日があたり幻想的で、とても美しい姿だったそうです。

そして、この作戦の詳細は秘密事項とされたため、爆弾の打ち上げは、なるべく目につれない夕刻から早朝までの間に行われ、基地のあたりを通る常磐線の列車の窓はヨ

ロイ戸で覆われ、基地や風船爆弾が見えないようにしていました。

### ① 風船爆弾放流大津基地

風船爆弾を打ち上げるためには、次の四つの要件を満たすことが重要でした。

一、仙台より北では気球がソ連（現ロシア）の領土へと到達してしまう恐れがあるため、仙台より南の太平洋岸に設けること。

二、放球後、上昇するまでに風の影響を受けず、また基地の実態を知られないよう陸地や海上からも遮断できる小高い山に囲まれていること。

三、気球に取り付けるガラストに用いる砂が採れる海岸近くであること。

四、風船爆弾に用いる器材の運搬に便利な鉄道があること。

このような条件を満たす最適な場所として選ばれたのが、いわき市の勿来海岸、北茨城市の長浜海岸、千葉県の一宮

海岸でした。現在の大津基地は、水田や畑、道路などに修復されていますが、県道三五四号線沿いに放球台の跡地が一つだけ残されています。



### 【場所】

茨城県北茨城市平潟町

### ② 風船爆弾犠牲者鎮魂碑

一九四四年（昭和十九年）十一月三日初の放球時、高度維持装置の故障により誤爆し三名の兵士が死亡しました。風船爆弾は、重要秘密事項の

ため、亡くなられた兵士の名前は明らかではありません。福島県勿来基地でも同じ事故があり大津・勿来基地計六名の菩提を弔うため地元有志の方々により建立されたものです。

もとは、六枚の木碑でしたが、県道の拡張工事にもない現在の地に新設されました。



### ③ わすれじ平和の碑

風船爆弾が放球されてからちょうど四十年目の昭和五十九年十一月二十五日に市民の有志によって建立されました。二〇一一年三月十一日の東日本大震災で大津基地の遺構も被害を受けたそうです。



### ○ 風船爆弾の効果

三つの基地から打ち上げられた風船爆弾は、一九四四年（昭和十九年）十一月から一九四五年（昭和二十年）の四月初旬までで、九千三百個ののぼりました。上空にゆったりと舞い上がる風船は、上空のジェット気流に乗ると四十時間から五十時間でアメリカに着くといわれていました。果たして、この爆弾はアメリカに到達したのでしょうか？

米軍が把握した風船爆弾の報告例は、三百六十一例だったといえます。地域別には、アメリカ合衆国本土のオレゴン州、モンタナ州、ワシントン州、カリフ

オルニア州などに二百一個、カナダのブリティッシュコロロンビア州、アルバータ州などに九十四個、アラスカに三十八個などとなっていて、アメリカ、カナダの西海岸を中心に到達していました。

### ○ オレゴンに建つ悲しみの碑

その日、アメリカ・オレゴン州南部のブライという町にピクニックに出かけた人たちがいました。森林公園に着いた時、子供たちは木にぶら下がっている大きな風船を見つけてきました。

「大きな風船だ」  
子供の一人がそれに触れました。次の瞬間、あたりは吹き飛び、轟音に包まれました。そして、六人が亡くなりました。

一九四五年（昭和二十年）五月五日のことでした。その場所には今、「第二次世界大戦の最中、アメリカ大陸で敵の攻撃によって死者を生じた唯一の場所」と記され

た悲しみの碑が建っているということです。

#### 【参考文献】

◆ 学び・調べ・考えよう

茨城県の戦争遺跡 伊藤純郎 編

◆ 地域を学ぶ小さな旅

いわきセミナーふるさと塾

## 茨城の戦跡紹介⑤

海原会参与 行方 滋子

今回は、茨城県北茨城市にある「震洋平潟訓練基地」の戦跡を紹介します。

### ○ 震洋とは

「震洋」は、太平洋戦争中に旧日本海軍が本土決戦に備えて極秘に開発した水上特攻用ボートで、「太平洋を震撼させる」という意味をこめて名づけられました。

震洋は全長五・一メートル、入手が容易なベニヤ板で外装を製作し、エンジンにはトラックのものを流用することで、

資材の乏しかった日本でもできるだけ効率よく大量生産ができるように考えられていました。

艦首に二五〇キロの炸薬を搭載し、一人乗り用の一型と二人乗り用の五型がありました。

時速六十キロで海上を疾走し、敵の揚陸部隊が上陸点に侵入する前に敵艦に体当たりして爆発するというものでした。

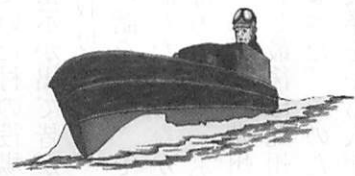
昭和十九年八月、大部分を子科練生で構成された一般兵科の搭乗員を主体とした、第一震洋隊が父島で編成されて以来、終戦までに日本本土の太平洋側・沖縄・台湾・朝鮮・フィリピンなどに一四六部隊が配備されました。

震洋は、その建造、取り扱いの軽便さと威力を買われて大量生産され、昭和二十年九月までには約六〇〇〇隻を整備し、十月と予想される敵の本土上陸に備えようとしていました。

しかし、フィリピンや沖縄



などの実戦に参加しましたが、期待していたほどの戦果を挙げることができませんでした。



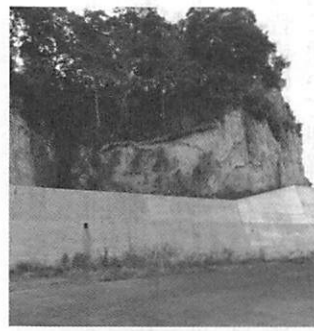
絵：太宰信明（甲14期）

① 震洋平潟訓練基地

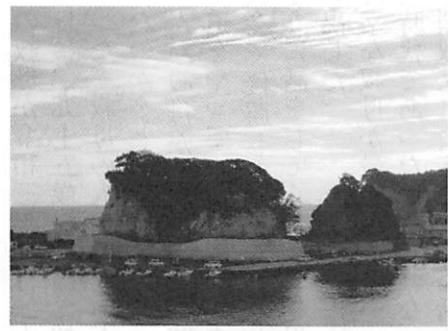
一九四五年（昭和二十年）六月二十五日に小名浜基地（福島県）に編成された一四一震洋隊（搭乗員五十名を含む一七三名）は、翌月の七月下旬、平潟訓練基地にその部隊が移されました。

しかし、終戦間際であったため実際に出撃したことはなく、同年九月二十日に解散されました。このためか、終戦の翌日、一人の隊員が猛スピードで震洋艇を乗り回し、ついに沈没してしまつたという

逸話が残されているそうです。令和元年に格納壕跡地周辺に崩落の危険性が高まり、周囲をコンクリートの壁に覆われてしまい、見ることはできませんでした。



平潟八幡神社から見た平潟基地跡の全景



対岸の初鳥山（はつとりやま）に、海軍特殊攻撃艇「震洋」が秘匿されていました。

茨城県北茨城市平潟町

② その他の碑  
東日本大震災記録碑



【碑文】

二〇一一年三月十一日十四時四十六分、三陸沖を震源とする東北地方太平洋沖地震は、東北地方から関東地方にかけて、東日本に甚大な被害をもたらしました。

北茨城市でも震度六弱の強い揺れと、そして十五時三十分一分に到達した津波は、最大で六、七メートルを記録し、いままでに経験したことのない被害をもたらし、一瞬にして死者五名、行方不明者一名

の尊き命を奪いました。震災と津波により市内では全壊及び半壊家屋は、二四〇〇戸を越え、自然に対していかに無力であるかを痛感させられました。

この碑は、東日本大震災の甚大な被害を永く記憶し、この震災の教訓を風化させることなく後世に伝えることを目的として建立するものです。  
平成二十七年三月十一日  
北茨城市長 豊田 稔

【参考文献】

- ◆ 図解「特攻のすべて」 近現代史編纂会編 山川出版社
- ◆ 写真集「震洋特別攻撃隊」 上巻・下巻 震洋会編 荒井志朗監修
- ◆ 学び・調べ・考えよう 茨城県の戦争遺跡 伊藤純郎 編
- ◆ 産経ニュース 茨城・北茨城市の特攻艇「震洋」格納壕跡



## 天国へのメッセージ

長野県大町市

平林 峰子

私の叔父山岸昌司は、昭和十七年十月二十六日南太平洋海戦で戦死した。

その叔父の事を知りたくて、調べ始めた時、主人の叔母に当時の大町の様子を聞いたことがある。

「昭和二十年戦争が終り、アメリカがくる！軍事関連の資料を早く燃やせ！燃やせ！勤めていた村の役場では、そんな指示が出て皆が大変だった。」叔母は、たった一度それだけ話をして、それから何も話したがらなかった。

叔母の兄は陸軍の兵隊で、松本の部隊から満州に行き体をこわし最後は九州の病院で亡くなった。そのために、実家の農業をやる人がいなくなり、叔母は兄に代わって、ただひたすら結婚もせずに働き家を守ってきた。

その叔母が令和三年九月二十三日に、九十五歳で天国に旅立った。叔母の人生って何だったのか？と考えた。

そんな叔母が、「女学校の時弓道をやっていて、長野県の大会で優勝した。」とうれしそうに話をしてくれたのを思い出した。

薄幸な叔母が最も輝いていた時代であったかもしれない。今頃叔父に会えてどんな話をしているのだろうか？

天国では、幸せでいて欲しい。

### 海原会会員徽章の販売

公益財団法人海原会会員の皆様には、日頃から会の活動に深いご理解とご協力をいただき、心から感謝しております。

さて、海原会にはいまから十数年前まで、会員様相互の絆を結ぶ証となる会員徽章が存在しておりましたが、在庫

切れに伴い自然消滅しておりました。



多くの会員の皆様からの会員徽章復活の要望に応えるために、理事会で検討を重ね、本年新たな会員徽章を制定し、このたび完成を見ることが叶いました。

つきましては、会員様に限定して左記の要領により販売をさせていただきますので、購入を希望される皆様は、機関誌に同封の郵便振込用紙に

よりお申込み下さい。

【お申し込み要領】

一 申し込み先

公益財団法人海原会

事務局

二 販売価格

一個 千円

(送料及郵便振込代は海原会で負担させていただきます。)

三 申し込み方法

同封の郵便振込用紙に、所要事項を記載のうえ、代金をご送金ください。

四 会員徽章送付時期

お申込み用紙が事務局に到着次第、一週間を目途に郵送させていただきます。



五 先行販売

去る五月二十八日に開催

されました第五十六回予科  
練戦没者慰霊祭の会場にお  
いて、慰霊祭出席の会員様  
には先行販売をさせていた  
だきました。

とク花ト込がのるて  
調一桜イめき条あつて  
基ィで、ライ埋ちも品とな  
をアンにはが落ちもと  
シルバードesignにストーン  
した中央部に落ちる中  
な中央部に落ちる中  
ストーンに落ちる中  
あま輝く気品と  
光輝く気品と  
会員徽章  
います。

## 救出飛行の最終便②

### 第一航空艦隊司令部附

元海軍少尉 岩崎 嘉秋

紅い光芒に映った指揮官  
の顔立ちには、童顔のぬぐい  
きれないものが残っていて、  
崇高なまでに緊張した口元と、  
さっぱりとした眼つきからは、  
清澄な白虎隊の意気地がしの  
ばれるのであった。襟元は中

尉の階級章がついていた。予  
備学生出身に違いない。

私は、指揮官を暗い飛行場  
の片隅に誘って、あたりを気  
にしながら小声で話しかけた。  
それというのは、私の知って  
いる事実を、ありのままに告  
げずにはいられなかったから  
だ。

「救出は、これで打ち切り  
になります。私の飛行機が最  
後です」

やっとの思いで、これだけ  
を打ちあげた。

このとき、これまで胸を圧  
迫していた重苦しいコルセツ  
トが、にわかに取り去られた  
ような解放感にひたれたので  
あった。

「あなたは、私と同県人だ  
ということを聞きました。私  
の飛行機にお乗りください。  
夜間戦闘機が来ないうちに、  
はやく飛び立ちたいのです。  
早くお乗りください。くわし  
いことは機上で話しましょう。  
早くお乗りください。はやく  
……」

### 指揮官との別れ

私は、おなじことを何回も  
すすめた。当然、私の言うこ  
とをきいてくれると思った。  
人間ひとり、計画外にルソ  
ン島から救い出す絶好のチャ  
ンスが、いまここにあるのだ。  
私自身、二度とふたたび飛  
うとしても来れない最後の飛  
行であるのだ。私は返事を待  
った。

指揮官は、うつむいたまま  
黙っていた。が、やがて重い  
口調で、

「あなたの親切心は、よく判  
りました。涙の出るほどあり  
がたく思っています。それは、  
あなたが各自の荷物を捨てさ  
せてまで、ひとりでも多く救  
出しよう、と、なされたときに  
わかりました。」

しかし、私：私は、いまこ  
こから逃げ出すわけにはいき  
ません。たとえ、あなたの便  
が最後であっても……こんどの  
便で帰る三〇名のほとんどが、  
マラリヤ患者と Dengue 熱病や、  
南方潰瘍におかされている者

ばかりです。これまで、こう  
した患者のために思うとおり  
に仕事が出来ず、それを耐え  
しのでやってきました。だ  
が、もうこれからは、足手ま  
といになる者がいなくなりま  
す。それだけでも大助かりで  
す……」

私は、これ以上聞くにたえ  
かねて眼をそらした。撃墜さ  
れた陸軍機が、いまなお赤い  
炎をあげてはいたが、火勢は  
すでに峠を越したようだ。

「敵が北上しつつあることも  
私は知っておりません。でも、  
たとえ一名でも部下をもつて  
いるかぎり、指揮官としてこ  
の基地をはなれることは出来  
ません」

この言葉を聞いて、私の胸  
は張りさけんばかりの鼓動に  
わなないた。基地はすでにゲ  
リラに囲まれ、しかも空から  
の攻勢を連日うけ、これから  
どうしてゆくのだろう。

武器らしい武器もなく、食  
糧さえ満足にない。医薬品も  
そうだ。

しかも、米軍はマニラ平原

をひた押しに北進している。対抗するにやにをもつて武器とするのか。戦いに疲れたわずかの兵士を部下にもち、指揮官はどうしてその責任を果たそうとするのであろうか。否、そのようなことは、とうに判りきつている。

ただ、戦争とひたむきにとり組んでいただけなのだ。純粹にたちむかっているというより外に言いようがないのだ。卑怯な行為や、未練がましい気持ちには彼のどこにも見出すことは出来なかつた。

私は、あふれる涙が口にはいつてくるのを拭おうともせず、まっ暗な飛行場の隅にただぼう然としてつつ立っていた。

「機長―一刻も早く出発してください。戦闘機がくるといけません。いそいで下さい。私にかまわず早く…」

私は、もう何も言ことが出来なかつた。かつて、救出のためニコルスフィールドに飛んだとき、夜の飛行場で私は某高級幹部から堅苦しい敬礼

をうけ、

「私は、台湾で重要な任務をもつています。ぜひとも今回の便に同乗させて下さい。機長！お願いします」と、懇願されたことがあった。そのことが、いかにも対照的に思ひ出されて悲しいのであった。私は、あえてその思い出を打ち消そうとして指揮官に別れを告げた。

「機長！無事に帰って下さい。私はそれだけを祈っています」といつて、彼は別れの握手を強くかえした。その時の指揮官の手から、なぜか血なまぐさい感触と体臭をくみとっていたのであったが、それを今もなお忘れることは出来ない。

### 飛び立った最後の飛行便

私は、指揮官のかわりに、もう一名乗ってもらうことを彼に告げた。

「機長！ありがとうございました。今後、ふたたびお会

いしてお礼を言うことは出来ません。ほんとうにありがとうございました。ごさいます。

指揮官のことは、ときにかすれときにと切れがちであつた。

飛行場の周辺から、狼煙がひとつ、またひとつと数を増してあかあかと燃えあがつた。夜間戦闘機がまもなくクラークの飛行場から飛んでくるのに違いない。

のろしは、それを暗示するかのよう、高く燃えさかるのであつた。

私は、別れの言葉を失つて、何も言うことが出来なかつた。感動が、私を無言にしてしまつたのだ。

私は、逃げるように、飛行機のところへ走つていった。離陸地点まで運んであつたダグラス三型機には、すでに将兵がぎつしり乗り込んでいて、ドアを開けて私を待っていた。

私は赤い懐中電灯で機内をたしかめた。

座席を全部とり外した機内の床面に、不規則に座つた

将兵の顔は、緊張のうちにも複雑な表情にゆがんで映つた。まぢがいなく三十二名乗つていた。

数え終わったとき、へうむ、これでいいのだと、ひとりりて納得する私だつた。が、へこれらの人と無事に台湾まで飛行しつづけなければならぬと、意識を強めて操縦席にすわつた。

離陸線で前方を見ると、暗い飛行場の端に小さな火がつけられた。それを合図に、私はスロットル・レバーを開いていった。

機は、前方の小さな灯りに向かつてまっしぐらに滑走する。その小さな灯に私は私の命と業を祈つた。

へ爆弾の穴にめり込むことなく、爆弾の破片でパンクすることなく、無事に浮上できるやうにVと。

三十二名を乗せたダグラス三型機は、ついに地面を蹴つた。小さな目標灯が、胴体の下にかくれたと思つたとき、片舷千三百馬力の金星五一型



の二つのエンジンは、このときとばかりに、そのたくましい金属音を発して、全力をだしきった。紛れもなく、暗闇の空をさして浮いたのだ。

あたかも、飛行場周辺の狼煙をあざわらうかのように、機は轟音とともに高度をとりつづけた。

ツゲガラオ基地は、あつとつづつと後方に遠ざかつてゆく。ふたたび見ることもないであろうツゲガラオから離れるとき、救出された乗員の心境は、はたしてどのようなものであつただろうか。

私は、いつまでも夜間戦闘機を警戒するよう機内の全員に注意した。三十二名の眼が、それぞれ暗闇の空をするどく見張ってくれたことであつたろう。

ルソン島をうしろにし、いよいよバシー海峡にさしかかった。針路を高雄飛行場に向けた。海の上の空は暗いとばかりだ。その中に突っ込めば、そこは味方の陣地と言つてもよい。戦闘機もここまでは追

つては来まい。

ひとまず胸を撫でおろした。だが、その矢先、私の脳裏をかすめる黒い影がうごめくのだ。その影は、やがてびつたりとへばりついて、離れようとしなない。

振り切ろうとしても無駄だつた。それは、飛行場に残した多くの兵士と、その兵たちに囲まれたひとりの若い予備士官の姿なのであつた。

うしろ髪をひかれる思いで、機は暗い海の上を飛びつづけた。

バシー海峡を渡りおえようとしたころ、右手に遠く黒い陸岸が突き出て見えた。

いよいよ台湾の最南端近くに来ていたのである。

「夜間航法もお手のもんだね。何回も飛んでいけば……今夜も、ドンピシャリじゃねえか、ほら、オーランピー岬が見えてきた。見えるだろう。ずうつと向こうに……」

と私は偵察員に贅辞のつもりでこういった。

「機長！どこですか。私に

は見えませんが……あつそうか！機長は注射をうったんでしたね。どうりで……」

と、偵察員には見えないのが当たり前だ。と言わんばかりの応答だつた。

数時間前、出発したときに注射した小さなアンプルの効果が、てきめんにあらわれてきたのである。

まもなく、高雄港北西にある寿山が前方に黒く浮き出てきた。

私は、寿山の山容をたしかめて、ようやく安堵の胸をなでおろした。三十二名のいのちは蘇つたのだ。

自分のいのちも、と思うと、俄かに感激の鼓動が波うった。

しかし、それも束の間、飛行場に残した黒い影が、どつとばかりに私を襲ってきた。

加えて、搭乗させた将兵のトランクを、無理に捨てさせた自責の念が、ジワジワと胸を締めつけるのだった。

なぜ、トランクを捨てさせたのだ！無事に高雄に着くではないか。

戦いながらも、病苦にもめげず握りしめていた札束を、どうして捨てさせたのだと、安堵とはうらはらに、新たな脅迫におそわれてくるのであつた。

高雄飛行場では、最終便の無事到着を祝っているかのようになり、着陸灯を整然とならべて、長い滑走路を美しく浮き彫りにしていた。私は、なだれ込むように着陸した。

そのご、ラウレル大統領一行の特別救出飛行が一回あつたが、それ以外、このときを最後にして、ルソン島の海軍残留部隊と台湾間の航空便はとどえてしまった。

ツゲガラオ基地から、「マニラ平原を北上してきた米軍と、我交戦す」という電報を見たのは、それから一ヶ月ほど過ぎてからだつた。

この文を当時のツゲガラオ基地指揮官と残された将兵に捧げる。

(了)

# さらば予科練 ⑪

乙飛十九期

山田 稔

## 柳谷兵曹の話

ところで、霞空東京分遣隊（後、東京空）にハンサムでそれで歴戦の空のエース柳谷謙治教員が在隊しておられた。ここに二月入隊した飛練最終の、四十二期生の黒野（旧姓大山、愛知出身）恒二氏がいた。彼は選ばれて、柳谷教員の班長係となったが、氏はその感想を戦後、藤野雅之氏、（前の海原会長）が編集された羽田会「絆」紙（ちなみに、早くから藤野氏を中心に羽田会を結成した。教官・教員・同期生に呼びかけ、会合等の活躍を続けておられた）に次の如く述べられている。

世話をさせて戴いたことを今でも誇りに思っている。特に印象深い思い出は、夜間の座学の時山本連合艦隊司令長官機の最後の模様を含めた実戦の体験を聞いて、青春の血が騒いだことである」と。

私もその時、日頃憧れました尊敬する柳谷教員の語られる一言一句も聞き漏らさじとそれこそ瞬きもせず聞き入ったものである。山本長官が昭和十八年四月十八日（奇しくも、ドーリットルの東京等、日本初空襲の一周年記念日の日）ソロモン群島、ブーゲンビル島上空で散華され、その後盛大な国葬が営まれ、早くから航空の重要性を唱えた、そのメッカ上空に元帥の像が建立され、当時在隊中の私たちは、その除幕式に参列した等幾分は知っていたが、柳谷教員の話は今まで考えてもみなかった。もちろん聞いたことと等ない、センセーショナルなものであり驚きの連続であった。

以下、長くなるので要点のみ書く。

▽柳谷教員は、当日長官護衛の名誉ある（後、痛恨の）六機の内の一機であったこと。使用機・零戦当初護衛は二十機程度と幕僚等が予定していたが視察方面の制空権は我方にあり長官は六機でいいと。

▽暗号電報が敵に解読されていた。

▽長官は非常に規則正しくその行動計画は一分の狂いもなかったこと。

この点待ち伏せていた、P38は襲撃時間は僅かであり、願ってもないことであった。

▽中攻二機（長官機・参謀長機）は、二五〇〇mその後上方五〇〇mに三機ずつ零戦が直衛したが天候は良く視界も良好であった。

▽P38は、その下方一〇〇〇mのジャングル上を這うようにして中攻を目標し、反航して射弾を送った。

まさに意表を突く攻撃

で、零戦は直ちに増槽を捨て、突進し中攻を襲うP38に向ったが、P38は十六機（当初予定は十八機）と多勢に無勢、遂に中攻は火を發し降下していった。

▽長官機の主操は乙五期の小谷立飛曹長・愛称「リトルさん」隊内随一のベテランであった。

火を吐く機を最後まで操縦し、一人でも多く助けるべくジャングルを低空で滑走した後が、長く残っていた。

▽混戦の中だが、滞空時間のないP38は、素早く遁走し柳谷教員は諦めず追跡し、ショートランド島南端で一機（ハイン中尉機）を撃墜した。ミッチェル隊は中攻二機、零戦五機撃墜とオーバに報告している。

▽不覚と言おうか無念と言おうか、長官機は黒煙を上げてジャングルに突っ込んで消えた。突然まさに降って湧いたような事

態に皆呆然と否放心状態で、然し緊急事態を報告するため取敢えずブイン基地に着陸した。

ところがいつもなら砂塵が舞い上がってひどいのに長官を迎えるため滑走路を清掃し水が打つてあったのだ。

基地駐屯の司令や、士官兵一同は正装で飛行場を待っていたが、着陸した私たちの元気がない然し、シヨッキンクな報告にたちまち大きな動揺が起きまた、直ちに救助隊が派遣されたのである。

▽その後、第十一航空艦隊の草鹿司令官一行がムンダに向うという、偽電報を発信し八十機の零戦で敵機を待ち、山本長官の弔い合戦を狙ったが当然、この愚かな作戦にアメリカ軍はソツポを向き、作戦は失敗した。

当初から、山本長官のみを狙っていたからである。

(後述)

▽補足として以下、筆者が

蒐集し考察した関連事項を記す。

この悲運と言うか、運命に弄ばれた六機の搭乗員は柳谷教員の外、次の五名である。

森崎武中尉、神戸出身、神戸商工校より海軍に入り(予七期)搭乗員となる。大正七年生まれ、昭和十八年六月十六日、ルンガ沖航空戦において戦死す。

日高義己上飛曹、操練四十八期、鹿児島県屋久島出身、二十三歳、六月七日、ルツセル島攻撃で戦死。

辻野上豊光一飛曹、甲飛五期、二十一歳、三重県宇治山田市出身、七月一日、レントバ島空戦で戦死。

岡崎靖二飛曹、甲六期生、埼玉県秩父市出身(?)六月七日ガツカイ島上空で戦死。

杉田庄一飛長、新潟県出身、十五歳で海軍に入隊す。丙(操練)六期、大正十三年七月生まれ、墜撃記録七十機以上、八月二十六日、空戦で負傷(後述)、上飛曹として二十年四月十五日、鹿屋にて戦死、個人感状に輝く。

六月七日、ルツセル島航空撃滅戦、柳谷機は隊長機に従って八〇〇mの高空からダイブして、六〇〇mで爆弾を落とし、すぐ空戦体制に移ろうとした瞬間、突然曳光弾がかすめ「はっ」とした。と

たん全身に鋭い痛みを感じた。本能的に体を見回すと、操縦桿を持つ右手からひどい出血があり、全く感覚がない。足もやられたらしく、飛行靴も破れたが脱いで見ることもできない。頭が割れるように痛い。風防の前面に大きな穴が開き「ゴー、ゴー」と風が鳴っている。息が詰まりそうだがもうダメかと観念したがエンジンは何ともない。

「俺もいよいよ死ぬか」と思ったがとにかく、帰れるだけ帰ろうと半ば意識が薄れ朦朧とする中で、氏を死神から救うのは烈しい負傷の痛みだった。そんな状態にありながら、数百キロも飛んで不時着場のあるコロバンガラ島に胴体着陸で滑り込んだ。スイッチを切った途端、氏は意識を失ったが気がついた時は、

麻酔薬なしで右手をノコギリで切る荒唐治の最中であつた。「私の青春は、己の右手と一緒にソロモンの空に葬ったと、今はそう信じています。そして右手と引き換えに、祖国への通行手形を手に入れたのです。」

右手には大きな知恵の輪の様な金属のリングが付いていて、このリングで飛行機を操縦して、羽田一番の腕前であると私は聞いている。

前述の杉田兵曹(進級して)も、また八月二十六日、シヨートランド東南方海上上空でエンジンに敵弾に射抜かれ、さすが豪放の彼も全身やけどの重傷を負った。

杉田が内地へ出発する前、杉本司令が見舞いに訪れ「杉田よ、よかつたのう…、貴様も達者でおれよ。わしはな、貴様達六人のことは終生忘れん。辛かろうが頑張ってくれ、また会える日を楽しみにしているぞ」然し、杉本司令も二十年六月十二日、クラークフイーロードの戦闘で、壮烈な最期を遂げたのである。

ラバウルに來たら生きて帰れない、搭乗員の墓場と言われた。資源も人材も少ない日本にとって、消耗戦は絶対に避けねばならぬ鉄則の筈である。処がズルズルとソロモンで戦い、失われた人員約十三万人、艦艇七十隻、船舶百十五隻、飛行機約八千機と言われ、特にベテラン搭乗員の損失は、二度と取り返しのつかぬ痛恨事だったのだ。

柳谷教員（兵長時代）



六機の護衛パイロットの柳谷飛長（当時）

柳谷教員は北海道出身と言われるが、戦後東京で不動産業を営み、年賀状を戴いたりまた、お会いした記憶もあるが、右手首切断というハンデイにも関わらず、お元気でそして、極めて腰が低く私達後輩に対しても丁寧で、これぞ

真の飛行機乗りといえよう。貴重で二度と代え難いそれ故心と体に傷を負ったまま戦い続けた柳谷教員こそ、太平洋戦争の歴史の一頁を飾るに相応しい方だと思う。また心からご苦労様と言いたい。

### ヤマモトを討ちとれ

「リメンバー・パールハーバーを忘れるな」の合言葉に代表されるように、真珠湾に対する奇襲攻撃はアメリカ人に猛烈な報復の念を燃え上がらせ、天皇・東条と共に、だまし討ちの元凶である山本連合艦隊司令長官に対する、憎悪は凄まじいものがあり、もし「山本を殺すことができたら」はアメリカ作戦首脳部の密かな願望となっていた。

そこへ四月十八日、鴨が葱を背負って出てきたのである。この情報は早速ハワイのニミッツ提督とワシントンのノックス海軍長官の手許に送られ、直ちに「山本を討ちとれ」の指令がヌーメアの南太平洋司令官ハルゼー海軍中将に発せ

られ、ハルゼーはガダルカナルのソロモン陸海軍混成航空隊司令官マーク・ミミツチャ少将に伝え、その実施方法に着手させ幾多の懸念・困難・危険度を取り越え見事成功を収めたのである。

後、待ち伏せ奇襲したP38のトマス・G・ランフィア大尉は表彰され、勲章を授与されたのである。

「山本五十六・戦争嫌いの司令官」PHP文庫、森山康平著というサブタイトルからして変な本があるがこれによると、東京裁判の裁判官だったオランダのレーリングは、アメリカ国内ではパールハーバー奇襲の責任者（これは山本長官であろう）だけを処罰すれば良いという雰囲気、マッカーサー元帥と話した時も元帥は「あの宣戦布告無しに騙し討ちである真珠湾攻撃について、軍法会議のような裁判を望んでいる」と語り、これでいくと山本長官は生きて日本の敗戦を迎えていたなら真っ先に、血祭りに上げられたに違いないと書いてある。

それは本当であろう。バターン死の行進の責任を取って本間將軍、更にフィリピン戦の責任者として山下將軍が裁判にかけられ非業の死を遂げられた。最もこのうち、山下將軍についてはシンガポール陥落のシッペ返しが多分に見られた。なんとすれば、相手のパーシベルが出廷していたからである。

ひどい話である。

山本長官はなぜ、大本營の反対を押し切り、ハワイ、そしてミッドウエーと攻撃を強行したのだろうか。もちろんその下の参謀とか幕僚の力も無視できないが、結果的にすべて裏目に出て噂に聞く「バクチ好きな長官」にふさわしくない結果を招来したのである。日・米の戦力の差は早くからアメリカ滞在等の経験豊富な長官であり、戦争の早期終結・早期講和を誰よりも強く望んでいたのだろうか。そのための非常手段とも受け取れるのである。

長官はミッドウエー作戦につき「もし本作戦で敵艦隊を



できれば、これを機縁に、戦争終結の工作が推進できると、亡き關将山口多門中将に漏らしていたという。

真珠湾奇襲からガダルカナルの初戦の頃までは、米海軍は太平洋の戦鬪の経験も浅く日本海軍の方が老練で勝利を収めることが多かった。

日本軍が大和を陣頭に立てて、早期に大攻勢に踏み切るべきだったとのアメリカ側の見方もあり、当然日本でもあった。だが長官はこの決断を下ろさなかった。何故であるのか。

今もって深い謎に包まれているといえよう。

日本の将来を見据え、戦争は避けるべきだと考えていてこの点、山本長官と同じである。長官は対米戦を望んでいなかった。だが時代は戦争へと烈しく傾斜していった。

ここに心より合掌し、そのご冥福をご祈念申し上げる次第である。

続く

## 魔の関門海峡

予科練二十三期

星 秀雄

昭和五十七年、所用で台湾の台北からキャセイ航空で韓国の金浦飛行場を目指して飛び立った。

空は晴れて視界良好、九州の上空に差し掛かった時、関門海峡の島々に当たる波しぶきが、くつきりと見えてきた。と同時に三十七年前の出来事が次々と脳裏に描き出されてきた。

今を去る昭和二十年六月十七日の午後四時十二分、突如ドローンと船底より伝わる轟音。一瞬何が何だか判らず只呆然と甲板に座りこんでいた。今まで先輩達に「二度と内地の土を踏む事は無いかも知れない」と言われ、これで日本も見納めか、と海峡の景色を眺めていた丁度その時だった。周りを見ると片足をもぎ取られ「俺の片足は何処へ行った」と泣き叫ぶ声。それは正に地獄絵そのものだった。

やがて後部から海水が押し寄せて来たので前方へ行こうと思っても体が動かず、忽ち海水に飲み込まれた。それまでは覚えていたが、それ以後は何も判らず、そして記憶が無い。

ほんの数秒か何十秒か無意識の中、突然頭上が明るくなり、夢中で海面に躍り出た。何か掴まるものがないかと探す運良く材木が浮いていた。仲間と一緒に掴まり、早くこの場所から遠く離れなければ、と気は焦れども一向に進まない。この儘だと沈没寸前の船による渦巻に、巻き込まれる恐れがあった。振り返ると船は舳先を高くして正に沈む寸前だが、まだ人が船にへばり付いているのが見えた。きつと泳げない者なのかも知れない。最初は軍歌を歌って励まし合い、三々五々と波間に漂っていたが、波の力により自然と離されてしまい、同期のT君が力尽き「お母さん」と言っただけで波間に呑み込まれてしまったが、どうする事も出来ず、だんだん心細くなってきた。

それでも暫くたった頃、それまで静かだった周囲が、にわかにはっきり「船がきたぞー」と大きな声が聞こえてきた。

近海に漁に出ていた漁船が機雷の爆発音を聞き、助けに来てくれたのだった。元気な者は泳いで漁船にたどり着き救助されている。よし、俺も行こう、とするけど自由がきかず、足の痛さで全く泳げない。その時両足に何か異変が起きてる事に気がついた。今まで緊張していて判らなかつたのだ。気は焦るがどうしようもない。

やがて幸いにも漁船が近づいてきて、引き揚げようとしてくれるが中々上がらない。それもその筈で、第一軍装の冬服が、たつぷりと海水を吸い込んで重くなっているのだ。「海に漂流してる間は着ている物は脱いではいけない」と教員から聞いていた。体温を保持するためと言う。ようやく引き上げられ、横になつた途端、両ビンタを喰らった。「眠っちゃ駄目だぞ」

と再び気合を入れられた。眠るとそのまま死に至るとの事だった。その後も先ほど出港した門司港に着くまで船上で時々気合を入れられた。

ようやく港に着くと、すぐ待つていたトラックに乗車し死直前の身を崩れるように荷台に横たわり、病院に着いた頃は夜になっていた。

先ず重傷患者からと言う事で、寒い一晩をその荷台に放置されたが、時々激痛に耐えかねて「殺してくれー」と叫ぶ声が聞こえてきた。

体の疼きを覚えながら空を見上げると満天の星空。そんな中現在の状況では同期の皆と同一行動が出来ず、この先どうしたものか、と不安で一杯になる。

暫くして門司の病院に入りそして広島の高海軍病院に転送された。しかしここも空襲で危険との事で、裏日本の鳥取県三朝温泉を、海軍が温泉宿を全館借り切り、病院としていた所に移された。

やっと落ち着いたところ、一般の患者も入院中の、同地

の岡山大学放射線研究所に再移動となった。そこでは軍人だけの簡単な朝礼があったが、温泉地なので朝から晩まで温泉に入る事が出来、私みたいな打撲患者には効力抜群で大変助かった。

その病院には私と同郷の先輩である十八期の方も入院されていた。出撃途中にエンジントラブルで不時着し、負傷された時の模様とか、その他いろいろと有意義なお話を聞く事が出来た。

体もだいぶ調子良くなった頃、突然お通夜の不寝番を命ぜられた。その集会所には海軍機関大尉の棺と、その上に軍帽が置かれてあった。丁度夜の十一時頃、空襲警報が発令され電気が消えたのを幸いに、外に出て明け方まで星空を眺めていた。その頃から、裏日本にも時々空襲警報が発令されるようになってきた。看護婦さんの手厚い看護を受け、体もだいぶ回復したので、軍医に退院を申し出たところ許可され、同期の鎌田君と一緒に懐かしの倉敷海軍航空隊

へと帰隊した。

当隊に着くと「お前達の原隊は朝鮮の鎮海海兵団にある」と申し渡され、再び関門海峡を渡る事になってしまった。門司港では早速港湾局に出頭し、船便の手続きをすると、「船はいつ出るか判らないので、毎朝九時半頃ここに来るように」と言われ、それから三日通った日に「今日で」と言われ大急ぎで乗船した。その船は見るからに前回の船より小さく心細いかぎり、

陸軍の年輩の兵隊や、一般の民間人も多少乗船していた。門司港を午後三時頃出港。湾内の景色は前回とすっかり変わり、マストだけ出している船、船体を半分出して沈んでいる船等々、その後の空襲の激しさを実感させられた。

日本海山口沖に停泊し、夕方を待ち朝鮮に向けて航海するのだが、途中まで海防艦が護衛してくれたが、いつのまにか消え、いなくなっていた。その日は天候も良く日本海に落ちる夕日がものすごく綺麗で、今まで見たこともない美

しさであり、戦争という言葉を忘れさせるひと時でもあった。午前二時頃爆音が遠くから聞こえ、友軍機かと思つたが敵機と判明、直ちに航跡を消すため停船。それでも船に当たる飛沫は真つ暗な闇の中でも不気味に白く見える。

突然飛行機が急降下し爆弾を落とすが当たらない。今度は左そして右にと落とす。火柱と海水が甲板に滝のように降りかかるので「これはまた海に漂流か」と恐怖心が募るばかり。

陸軍の兵隊や一般の人には救命袋が渡されたが、我々海軍兵は泳げるものとしてか、渡されなかったが、何とか無事の航海が続き良かった。

最初は釜山港に入港予定だったが諸々の事情で蔚山港に明け方無事入港した。

それは昭和二十年八月十五日終戦の数日前だった。

そしてその後終戦処理の仕事を命ぜられ、光州基地にも派遣され同年十一月十日やっ

完

(公財)海原会寄付者芳名簿  
(敬称略)(単位千円)

- 五 加藤 正春(一般)東京
  - 一〇 坪井 裕子(非会員)千葉
  - 三 深山 鋼一(一般)千葉
  - 二 久保 和雄(乙24)福岡
  - 六 住谷 定(甲15)茨城
  - 五 岩館 芳雄(乙24)東京
  - 一〇 不 明(非会員)不明
  - 五 本間 謙伸(甲七遺)群馬
  - 一五 磯貝浩次郎(甲三遺)岐阜
- 海原会へのご芳志  
誠に有難うございました。

事務局日誌

三月

四日

日本学術振興会特別研究員清水亮氏来所  
於 事務局  
行方参与取材の目的で事務局を訪問  
四日

#2慰霊祭実行委員会

於事務局参加者

酒井実行委員長  
星指副理事長、篠田理事、平野理事、山下理事、湯原評議員、行方参与、木下事務員、工藤様、安部様、巻島様

六日

雄翔園五葉松伐採  
於 雄翔園

虫害のために立ち枯れた、雄翔園入口の五葉松を伐採

八日

更生保護女性の会  
会長来所  
於 事務局

更生保護女性の会大竹会長が事務局を訪問し、予科練戦没者慰霊祭の支援について平野事務局長と調整  
二十日

二十日

予科練平和記念館運営協議  
於 予科練平和記念館

平野事務局長が、出席  
二十四日

三者連絡会  
於 事務局

参加者 予科練平和記念館長、阿見町観光ガイド会長、同副会長、平野事務局長が参加  
二十四日

二十四日

下総航空基地観桜会  
於 下総航空基地

平野事務局長、行方参与が出席  
二十五日

二十五日

特攻隊慰霊顕彰会慰霊祭  
於 靖國神社

六車顧問が出席  
二十九日

二十九日

更生保護女性の会役員会  
於 阿見町役場会議室

平野事務局長が同役員会で慰霊祭への支援を要請  
四月

四月

一日

武器学校観桜会  
於 武器学校

武器学校の要請を受け、雄翔館の案内を担当した  
十二日

十二日

六車顧問来局  
於 事務局

六車顧問が来所し、懸案事項について平野事務局長と意見交換

十二日

海自下総教育航空群幕僚長雄翔園視察  
於 雄翔園

下総教育航空群幕僚長が、慰霊祭支援の現地確認のために雄翔園等を訪問した  
十九日

十九日

三者連絡会  
於 事務局

予科練平和記念館長、阿見町観光ガイド会長、同副会長、平野事務局長が参加  
二十二日

二十二日

令和四年度監査  
於 事務局

出席者 豊岡監事、酒井副理事長、平野理事  
二十二日

二十二日

四月定例理事会  
於 事務局

出席者 安井理事長、酒井副理事長、篠田理事、湯原理事、山下理事、平野理事、豊岡監事

海原会会員の皆様へ

小さくてもあたたかい

# 一日葬 家族葬

お葬式のご依頼や  
「もしものとき」に  
備えた事前のご相談  
年中無休で承ります

相談  
見積 **無料**

お客様満足度  
**99%**※

自宅葬、一日葬、お別れ会のほか、  
ご希望に合わせた  
お葬式プランがいろいろあります。

※当社施行客アンケート調べ

新型コロナウイルス感染拡大防止に万全を期しています。

## お墓

お墓のことなら何でもご相談ください。墓石工事は信頼の10年間の保証書付きです。

墓所工事  
標準価格  
(10万円以上)の  
**10%割引**

サービス提供エリア:  
関東・関西・東海



「お墓のお引越ガイド  
& 事例集」

無料で資料を差し上げます。

## お葬式

葬儀一式をセット化した「葬儀式セットプラン」を各種ご用意。最適なプランをお選びいただけます。

葬儀  
祭壇標準価格の  
**20%割引**

※一部斎場、一部商品は除く。  
新花で送る家族葬は  
優待料金  
サービス提供エリア:関東



「お葬式の流れが  
わかる100項目」

無料で資料を差し上げます。

## お仏壇

仏壇店は首都圏に2店舗(国分寺・千葉)。伝統型仏壇や家具調仏壇、手元供養商品まで豊富な品揃えです。

仏壇  
店頭価格の  
**25%割引**

※ただし、催事特価品と  
仏具小物、手元供養商品  
は対象外  
サービス提供エリア:関東



「お仏壇カタログ」  
「特選 お位牌」

無料で資料を差し上げます。

お問い合わせは  
海原会事務局へ

# 029-886-5400

お問合せの際は、「予科練を見た」とお申し出ください。

MAO  
MEMORIAL ART OHNOYA



## メモリアルアートの大野屋

<http://www.ohnoya.co.jp>



「予科練」第47号7・8月号

昭和53年7月26日第3種郵便物認可 (隔月奇数月1回1日発行) 編集人

安井 剛  
保坂俊雄

発行所 下

300-0301

公益財団法人 海原会  
茨城県稲敷郡阿見町青宿489番地1  
(慎輝ビル3階)

郵便振替  
0014019154332  
FAX 02918616400  
02918616400

定価500円